

鳥ヲ東ニハ大ヲソ鳥ト曰、鳥ハ物食ニキタナケレバ、大賦鳥ト申侍リ、サレバ萬葉ノ東歌曰、○歌在上マサデニモトハ正モト曰也、テト、トヲバ萬ヅノ詞ニ加フル也、コロクトハ東詞也、コハ來云心也、コトロクハ詞ノ助ケ也、耳ナンド曰類也、萬ヅノ詞終ニロヲ加ト云リ、人ノ子ヲコロトヨミ、山ノ根ヲ子ロト讀リ、仍鳥ノコカ〜ト鳴ヲ、コロク鳴ト云也、ヲソハ黒ト云詞也、サレバ日本紀ニモ、似鳥食糞ト書キ侍リ、又萬葉ノ浦島ガ歌ニモ、キタナシト云ヲヲソヤトヨメリ、○中略文ニモ鳥ヲバ貪鳥又ハ鳥合之群ナンド云テ、鳥ノ中ニハ心貪欲ニ、凡ソ非常ナル物ニ申習ハシ侍ル也、又大黒鳥共書リ、黒ノ字ヲモキタナシトヨム、今ハ黒キ義ニハ非ザル也、

〔散木奇詠集〕明月如晝

くまもなき月の光にはかられておほをそどりもひるとなく也

〔土御門院御集〕鳥名十首

いつもきくおほをそ鳥の聲までもねざめ悲しき有明の月

〔倭訓栞前編六〕からす 慈鳥をいふ、里がらす是也、黒しと音通するよし、萬葉集抄に見えたり、詩

に莫黒匪鳥といへる是也、一説に鳴聲を稱すともいへり、歌に山がらす、むらがらす、うかれがらす、こもちがらす、やもめがらすなどもよめり、享保戊申の八月に、西京に鳥ありて人語す、草履を賣の聲也、加賀人のいへるは、我郷國にもまたみると、はしぶとは鴉也、白鴉たま〜西國にあり、暹羅國の鴉は皆白色也といへり、また唐がらすあり、喜鵲也といへり、あけがらすは曙鳥也、梁詩にみゆ、とまりがらすは栖鳥也、隋詩にみゆ、つきよがらすは夜月鳥也、唐詩にみえたり、朝がらすは萬葉集にみゆ、今もいへり、俗に七月のわかれがらすといふは、春雛を生てその雛長じて後は、反哺して七月には、必ず他所に別れ去もの也とぞ、是孝鳥也、禽鳥の内首尾毛色雌雄のわいためなし、よて誰か鳥の雌雄を知らんなどいへり、尾張の熱田安藝の嚴島、伯耆の大山セに、靈鷲あり